

ふくい経済トピックス（結婚編）

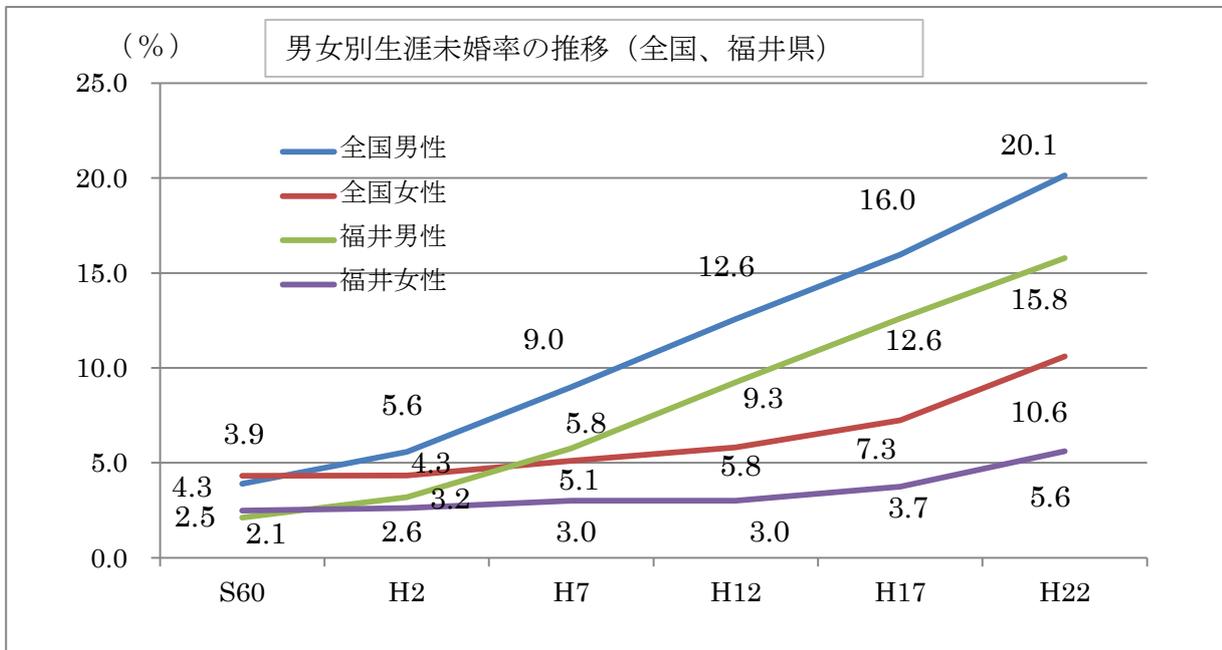
〈生涯未婚率は20%超〉

先日、平成22年の国勢調査結果から、男性の生涯未婚率は20.1%、女性も10.6%に上ったと報道されていました。

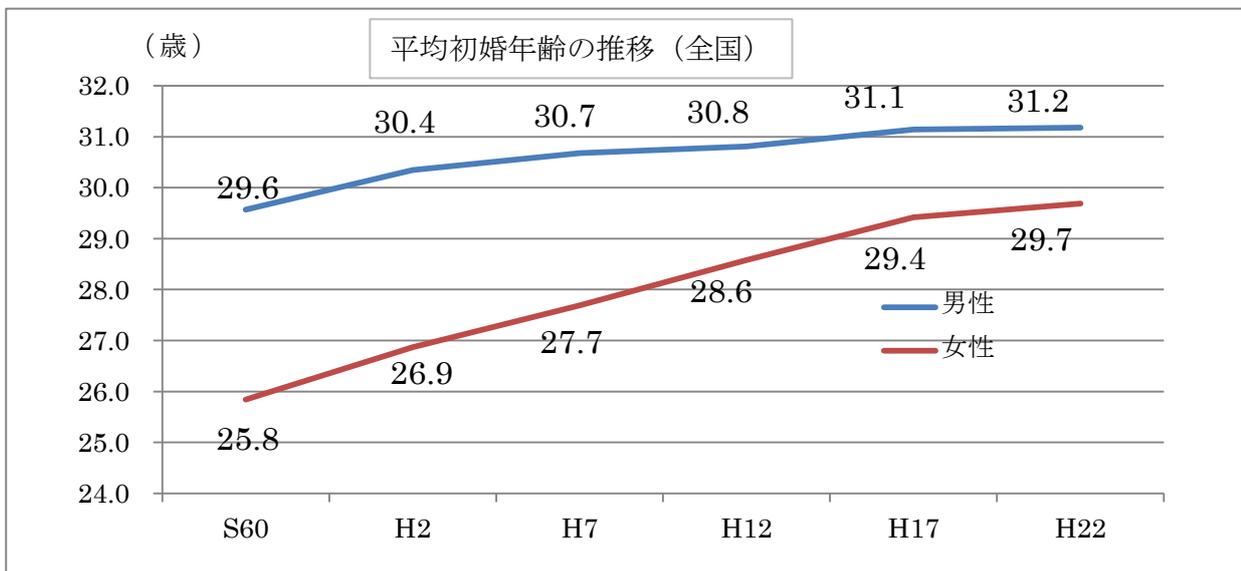
生涯未婚率とは、50歳時点での未婚者の比率を表しており、統計的には「45～49歳」と「50～54歳」の平均をとったものですが、50歳を超えてから初めて結婚する人は極端に少ないので、生涯未婚率と表現しています。

さて、グラフ1は男女別の生涯未婚率を、グラフ2は平均初婚年齢を表しています。これをみると、男性はこの20年、女性はこの10年で極端に未婚率が上昇していることがわかります。また、初婚年齢も以前より高くなっていますが、その上昇傾向は、近年幾分緩やかになっていることがうかがえます。

（グラフ1）



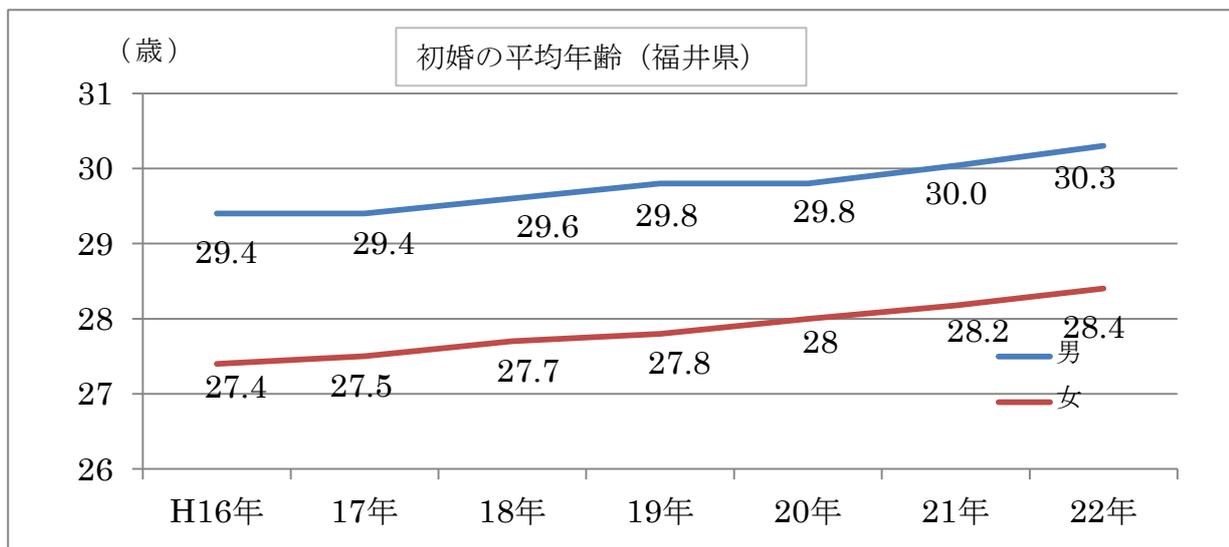
（グラフ2）



では、福井県の場合はどうでしょう。平成 22 年の生涯未婚率は、男性は 15.8%、女性は 5.6%と全国値を 5%程度下回っています。初婚年齢では、最近の数値を紹介すると、平成 22 年は男性で 30.3 歳、女性で 28.4 歳とこちらも全国値を 1 歳程度下回っています。

全国平均に比べれば、結婚も早く、未婚率も低くはなっていますが、上昇傾向にあることは間違いなく、福井県においても、未婚者の増加、晩婚化が更に進むのではないかと懸念されます。

(グラフ 3)

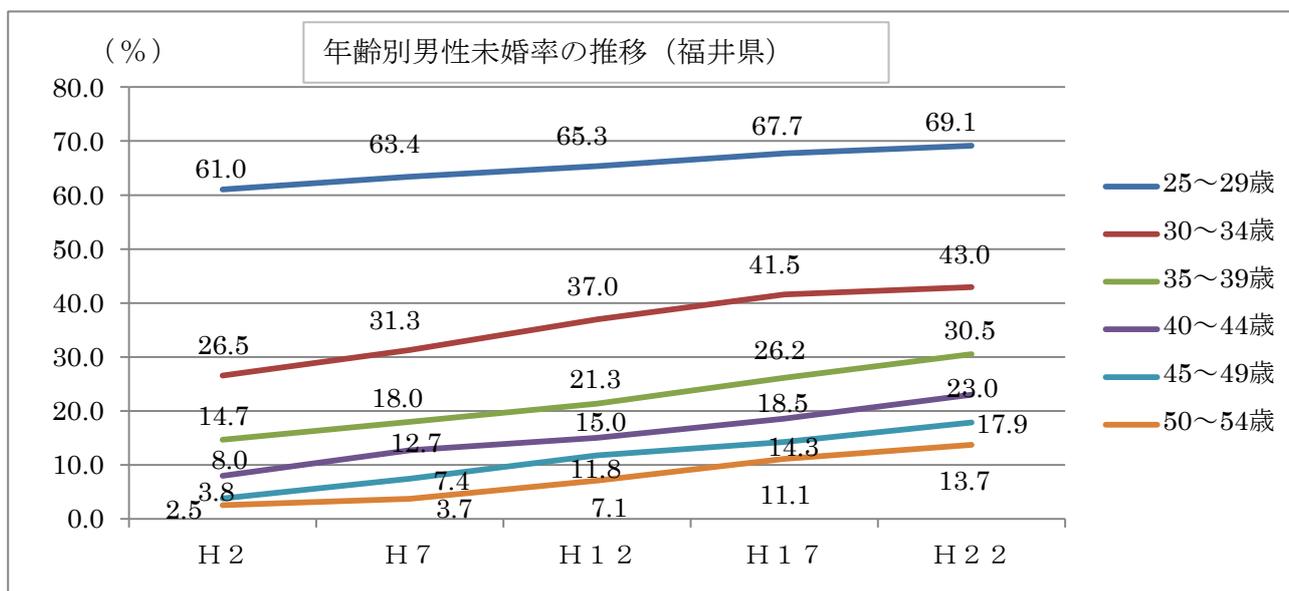


〈急激に高まる未婚率〉

福井県の国勢調査時の男女別年齢別の未婚率の推移を表したものが、グラフ 4、5 で、この 20 年間の変化を見てみましょう。

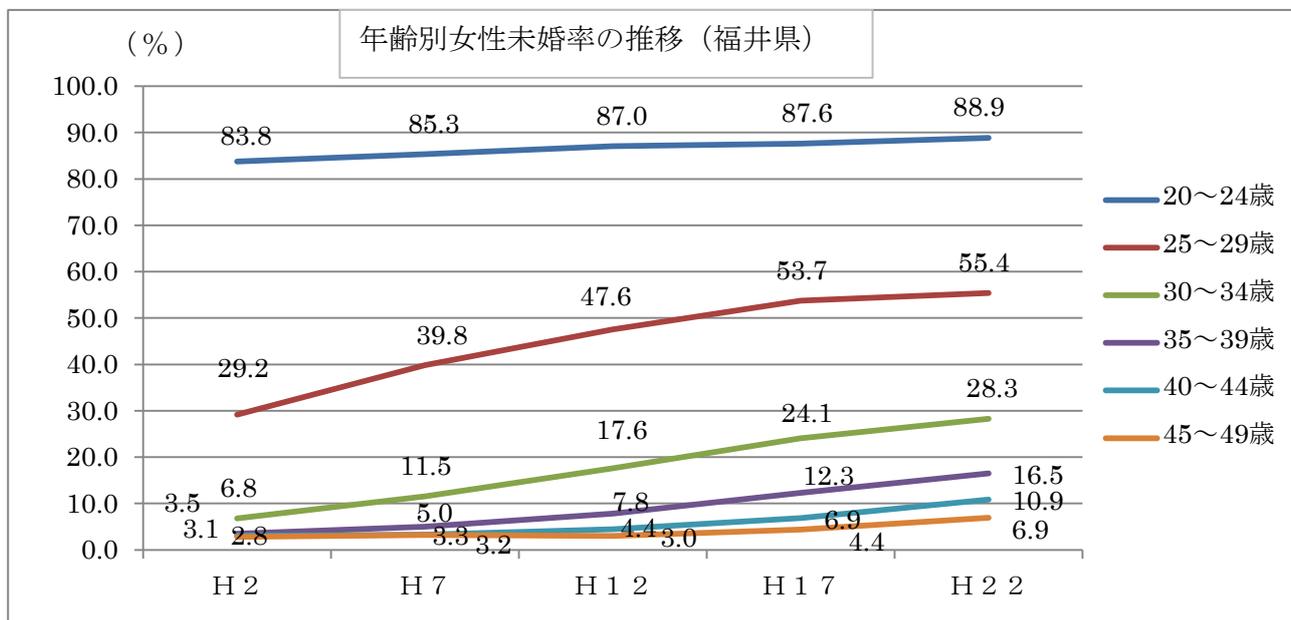
「25～29 歳」男性の未婚率は、61.0%から 69.1%へと 8 ポイント上昇、「30～34 歳」では 26.5%から 43.0%へと 16.5 ポイント上昇、以降 35 歳以上の年齢でも 15 ポイント程度の上昇となっています。

(グラフ 4)



一方、「20～24歳」女性は83.8%から88.9%に5ポイントの上昇にとどまっているが、「25～29歳」では29.2%から55.4%へ26ポイントも大幅に上昇、「30～34歳」でも6.8%から28.3%と21ポイント高くなっています。

(グラフ5)



この傾向が続くと、福井県の男性の生涯未婚率は30%に、女性は20%にまで高まるのではと懸念されますが、このことは福井県においても更に少子化が進むことを示しています。

男女とも大学等への進学率が高まったことが晩婚化の一要因にはなっていますが、これだけ未婚率が急上昇している背景には、収入よりも「結婚に対する考え方の急激な変化」と、「家族関係の変化」があるのではないのでしょうか。

〈22年は結婚数が大きく減少〉

平成22年の福井県内での婚姻件数は、再婚を含めて3,705件で、21年の4,017件から300件以上も減少しました。

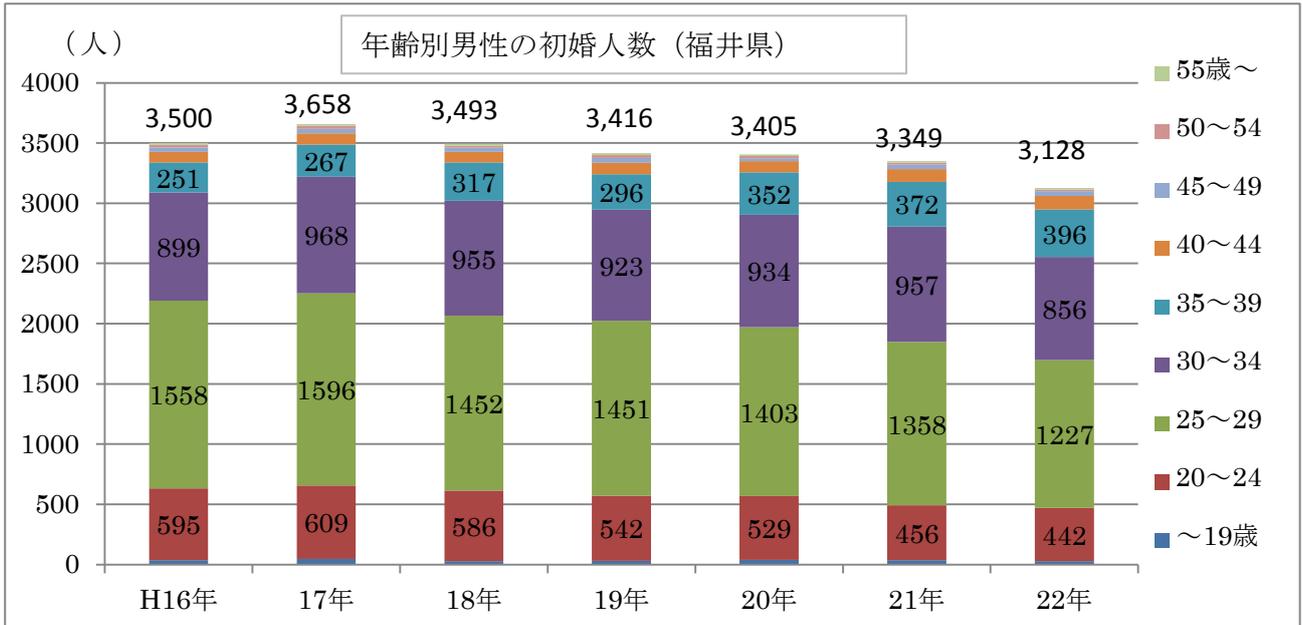
ここ数年の男女別年齢別の初婚者の数をグラフ6、7にまとめてみました。これをみると、平成17年以降、初婚者数がだらだらと減少し、平成22年になって急に減少幅が大きくなっていることがわかります。

5年前の平成17年と比較して、男性では「25～29歳」で631人、「20～24歳」で167人、「30～34歳」で112人と減少し、一方「35～39歳」では129人増加しています。

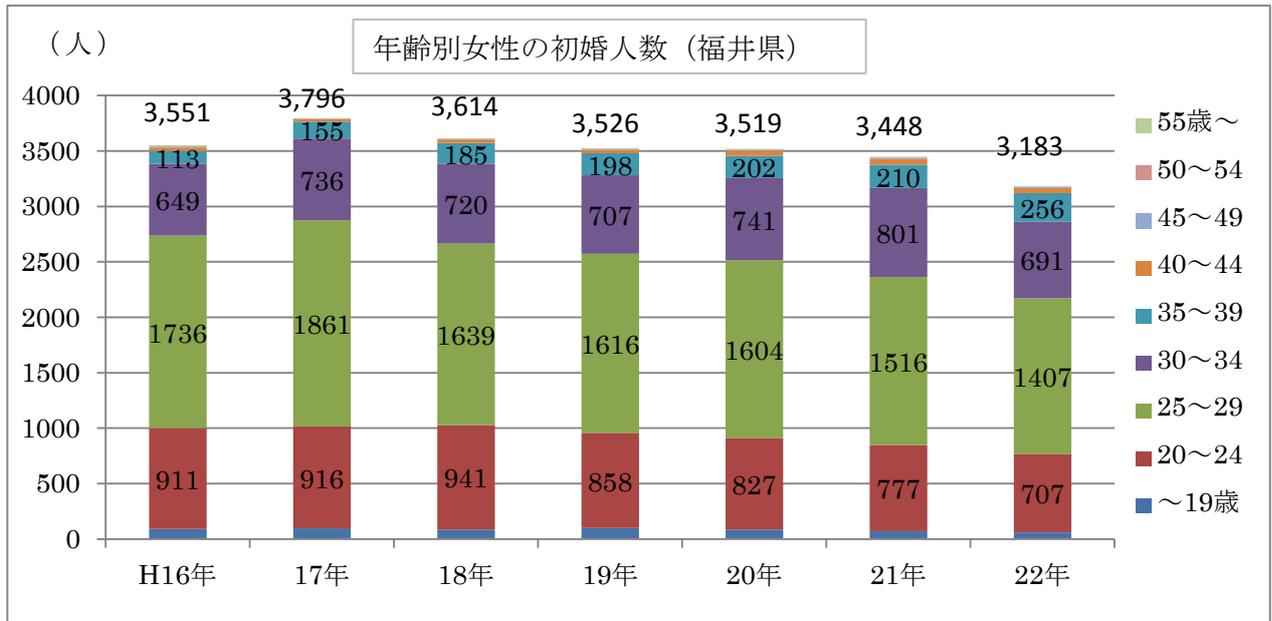
女性では「25～29歳」で454人、「20～24歳」で209人減少し、「35～39歳」では101人増加しています。

このように結婚のピークは男女とも「25～29歳」にあるものの、近年晩婚化の傾向だけでなく、結婚自身をしなくなるような動きもみられます。

(グラフ 6)



(グラフ 7)



〈非婚化にどう対処するか〉

結婚式場だけでなく、結婚により新たな家庭が生まれることで、住宅、家具、家電、ベビー用品など多くの産業で新たな需要が生み出されてきました。しかし、結婚の件数の減少は、これらの多くの産業へも影響を与えるもので、「街コン」など新たな出会いを作り出す取り組みへの積極的な参画も必要になっています。

また、最近のテレビ番組で、バブル期の「ハデ婚」、その後の「ジミ婚」、最近では披露宴や式自身をしない「ナシ婚」が流行していると紹介していました。初婚年齢の上昇は、これまで以上に経験や情報を持った顧客が増えているということで、新たな結婚式の「形」を提案することも必要になっているのではないのでしょうか。